

大阪 21 世紀の新環境総合計画の点検評価（毎年度サイクル）の概要 ～環境総合計画部会報告～

環境総合計画の進行管理について

- ▶ 毎年度サイクルの点検評価
 - 主な施策・事業の年度毎の取組指標（アウトプット）の達成状況を中心に点検評価
 - 重点的な分野を設定し、詳細な点検評価を実施
- ▶ 複数年（3～4 年）毎のサイクルの点検評価
 - 2020 年の目標（アウトカム）の達成に向けた施策の方向や、主な施策等の実施効果の検証を行う
 - 点検評価結果に基づき、計画を柔軟に見直し

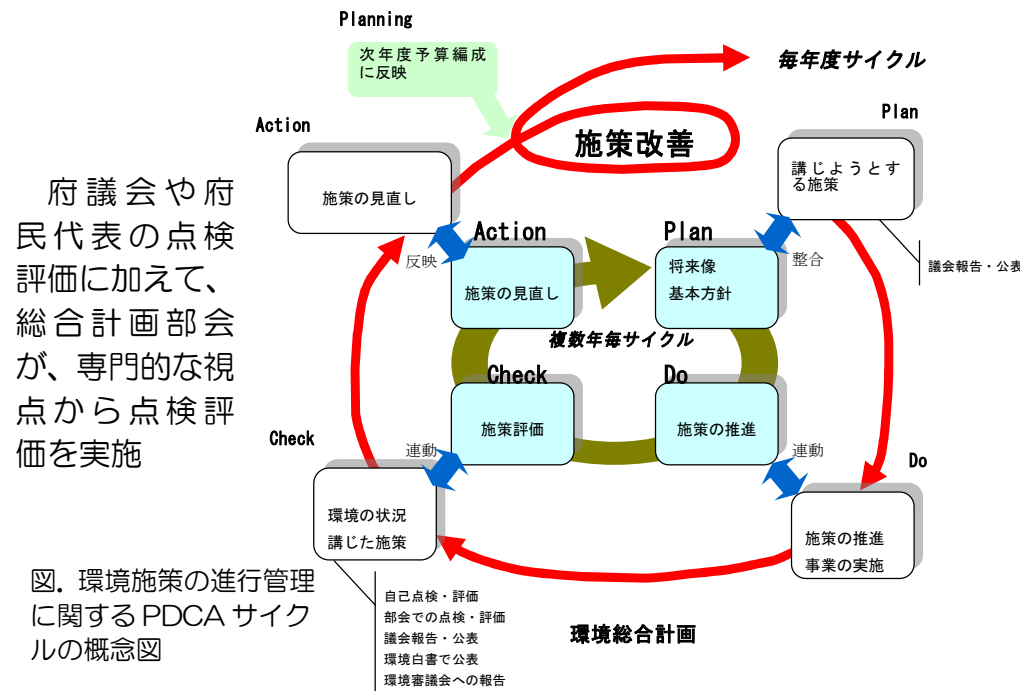


図. 環境施策の進行管理に関する PDCA サイクルの概念図

平成 26 年度の部会における点検評価の状況

[開催日時] 平成 26 年 8 月 18 日（月） 午後 3 時～

[審議内容]

- (1) 「平成 25 年度における環境の状況及び講じた施策」をもとに、全分野の施策・事業の点検・評価
- (2) 重点的な点検・評価
 - ▶ 全てのいのちが共生する社会の構築（生物多様性の保全）
 - ▶ 魅力と活力ある快適な地域づくりの推進（みどり、景観、騒音、ヒートアイランド対策等）
- (3) 複数年サイクルの点検評価の方法

今年度実施する複数年サイクルの点検評価の作業手順、スケジュールの確認（次回、11 月 7 日部会において実施予定）

25 年度の施策事業の点検評価の総括

<点検評価の概要>

府による自己点検評価の結果について、以下の資料に基づき、環境総合計画部会で点検評価を実施。

- 点検評価表（主な施策事業の実績、進捗、自己点検評価結果・課題、改善の方向性等を記載）
- 施策報告「平成 25 年度における豊かな環境の保全及び創造に関して講じた施策」（案）（環境の状況、施策・事業実施状況）
- 重点分野の施策実施状況報告（目標、現状、施策の方向ごとの事業実施状況等）

<個別の施策事業（重点分野を除く）の点検評価>

（主な意見）

- 条例による事業者の省 CO₂ 対策など、低炭素のための施策事業について、CO₂ 排出量削減量で効果を示されたい。
→（府の回答）温暖化対策実行計画の進捗管理において削減量を把握している事業については示す。
- 環境イベントは来場者数のみを評価するのではなく、環境意識の向上に役立っているかを見るべき。
→多くのイベントでアンケートにより効果を把握しており、今後も環境意識の向上につながるイベントとなるよう内容の充実に努める。
- ヒートアイランド対策と省エネ対策の両方に資する施策など、複数の目的に対して効果が上げられるような施策について、それぞれの目的に対し効果が上げられるよう、うまく連携を図られたい。

<重点分野の点検評価>

対象：全てのいのちが共生する社会の構築分野、魅力と活力ある快適な地域づくりの推進分野

（主な意見）

【全てのいのちが共生する社会の構築分野】
（生物多様性の保全）

- ナラ枯れ対策（環境総合計画策定後に顕著となった問題であり、計画に記載が無い。）、及び放置竹林対策についてどのように対応するのか。
→状況調査とともにナラ枯れ対策やアドプトフォレストによる放置竹林対策も進めており、計画の見直しに際しては位置づけを検討する。
- レッドリストで貴重な生態系を有する地域として示されたアカマツ疎林や広葉樹の二次林などの減少を踏まえ、府域の森林の将来像について検討されたい。
- レッドリストでは個別の動植物だけではなく、希少な野生動植物が生息している地域について「ホットスポット」として指定しているが、指定後の対応についても検討を深められたい。

【魅力と活力ある快適な地域づくりの推進分野】

- ヒートアイランド対策推進計画の目標達成（熱帯夜数の 3 割削減）は難しいのではないかと。
→計画では、地球温暖化による気温上昇分を除外した熱帯夜数（最低気温 25℃以上となる日数）を、2025 年までに 3 割削減する目標を掲げている。この日数は基準年（2000 年）から 2011 年にかけて 1.4 割減少しており、施策効果がある程度現れた結果と考えられる。
- 今後、緑地の評価について、量だけでなく生物多様性への影響など質的な指標も検討されたい。
→生物多様性の保全に着目した緑地の評価方法については、今年度実施する複数年サイクルの点検評価の際に検討する。

○ 点検評価の結果、各施策事業は概ね順調に進んでいることが認められた。